

令和5年6月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

大久保 堅太 議員

◇教育行政について

(1) 県立高校の存続と魅力化について

- ・少子化が進行する中で、高校が存続していくためには、学校の魅力化が必要であると考える。今後の県立高校の在り方や方向性をお尋ねしたい。

(教育長答弁)

少子化の進行により、離島半島地域の県立高校では小規模化が進んでおり、学校を維持できなくなれば、引いてはその地域の活力の低下につながるのではないかと危惧しております。

そこで、今年度から、地元市町と連携し、魅力ある高校の学びの創出と地域の活性化を連動させた新たな取組を実施することとしており、「地域を担う子供達は地域で育てる」という気運を醸成していきたいと考えております。

また、令和7年度に予定している遠隔教育センターの開設により、小規模高校の学びの充実を図ってまいります。これらの取組を通じて子供達にとって地元の高校で学ぶことが選択肢の一つとなるよう、魅力ある学校づくりに努めてまいります。

(2) ながさきモデルの充実について

- ①離島留学制度は、いわゆる教育版ながさきモデルであると考えており、一層の充実を願っている。改めて離島留学制度の特徴を伺いたい。

(教育長答弁)

離島留学制度では、県立高校5校に語学やスポーツなど特色ある学科やコースを設置しており、その学びに魅力を感じ、目的意識の高い生徒たちが県内外から集い、本県のしまならではの豊かな自然や文化の中で互いに切磋琢磨し、様々な体験を通して成長していけるような学びの環境を提供しています。

現在、老岐での事案を受け、今後の制度の在り方を検討しているところであり、家族の元を離れて来た生徒たちが、安心して学校生活を送ることができ、しまの中で友人や里親、また島民とのぬくもりのある交流を通して成長していけるような制度の改善に努めてまいります。

- ②離島留学制度の他に、長崎県を支える人材育成の視点から、長崎県の特徴的な取組、いわゆるながさきモデルとしてどのようなものがあるのか。

(教育長答弁)

予測困難な時代を生きる生徒たちに必要な資質や能力は、自ら考え、行動し、他者と協働しながら解決策を導いていく探究力であり、新たな価値を創造しようとするチャレンジ精神や発想力ではないかと考えています。

そのような生徒を育成するために、今年度から新たに県立高校5校に「文理探究科」を設置し、生徒が自らの問題意識を基に課題を設定し、解決策を導き出していく探究型学習に取り組んでいます。

また、約半年間にわたり、スタートアップ企業の経営者などとの対話を重ね、ビジネスプランを生徒自身が練り上げていくプロセスを通して起業家精神を育ていく「アントレプレナーシップゼミ」なども実施しているところであります。